



みんなでつくった「砂の作品」 ～10月26日 海岸クリーン作戦・砂浜集会～

この活動は、全校児童を学年別ではなく、縦割り(1～6年混合)でのグループを作り計画実施するのが特徴です。例年、6月に実施していた「海岸クリーン作戦・砂浜集会」を、天候等の都合により、今年10月末に行いました。これまで、運動会のリレーや掃除などの縦割り活動のチームワークを高めるために行っていましたが、今年、運動会までの活動で培ってきたチームワークを発揮する場となりました。

グループごとに海岸に落ちているゴミのうち、分担した種類のゴミ(空き缶、自然物、燃えるもの、ペットボトルなど)を集める「海岸クリーン作戦」では、あっという間に多くのゴミが袋いっぱい集められていました。

きれいになった砂浜に、グループで考えた海の生きものを描く「作品」づくりでは、更にチームワークを生かした活動が見られました。5、6年生が、全体を考え、形を整えたり、白い砂で模様を作ったりする指示を出していました。6つのグループのすばらしい作品を、ご覧ください。



福津市一斉防災訓練

11月11日土曜日に、福津市一斉防災訓練が行われます。子供たちは、登校後、防災体験学習を行います。この日は、勝浦校区の中学生も小学校に来て、一緒に体験活動に参加します。

いつ起きるか分からない災害に備えるために、保護者の皆さんも、是非体験学習にご参加いただきますようお願いします。

なお、体験活動後に行う児童の引き取り訓練についても、ご協力をよろしくお願いします。

マル勝まつり

11月25日土曜日

保護者の皆さんを始め、地域、お知り合いの方など多数の皆さんのご参加をお待ちしています。

チラシはこちらから⇒



主な行事予定

※ 現時点での予定のため、日時・内容の変更を行うことがあります。

11月		12月	
日	曜	日	曜
1	水	1	金
2	木	2	土
3	金	3	日
4	土	4	月
5	日	5	火
6	月	6	水
7	火	7	木
8	水	8	金
9	木	9	土
10	金	10	日
11	土	11	月
12	日	12	火
13	月	13	水
14	火	14	木
15	水	15	金
16	木	16	土
17	金	17	日
18	土	18	月
19	日	19	火
20	月	20	水
21	火	21	木
22	水	22	金
23	木	23	土
24	金	24	日
25	土	25	月
26	日	26	火
27	月	27	水
28	火	28	木
29	水	29	金
30	木	30	土
		31	日

勝浦小学校では、子供の「自己有用感」の育成をめざし、教育活動を行っています。子供の自己有用感を育成するために、以下の内容は、子供の周りの大人にとって、重要な意識の一つだと考えます。是非ご一読ください。

学校の役割とはなんでしょう ～学校の教室で行うことが変わってきています～

勝浦小学校は、来年創立150周年を迎えます。長い学校の歴史を振り返ると、時代ごとに教育活動は、その目的、方法、場所など変化してきています。未来を担う子供たちを育てるために、学校の役割として何が大切か、考えてみました。

明治7年(1874年)、勝浦小学校が創立された頃は、当然、今とは全く違う社会環境でした。いわゆる江戸時代が終わり、近代の文明を開化させるべく、政府が一斉に推し進めた教育は、まず、各地のお国言葉(方言)を話していた人々に一律、標準語を習得させることを目的としていたそうです。さらに、欧米に負けない近代国家としての体裁を整える上で、生活や行動様式、思想信条などを教え込んでいった時代でした。

その考え方に基づくため、教室では、教師が絶対的存在でした。子供たちは、教師の号令に合わせ、同じ言葉で同じ行動をすることを求められていました。そして、産業革命に伴い発達した工場の工員として、同じ作業をミスなく、効率的に、言われたとおりに忠実にこなす能力を高めさせていたと言われています。「このやり方は良くないと思います」と多くの方が感じられるのではないのでしょうか。しかしながら、この考え方の残骸は、現代の私たち大人の中にも残ってないでしょうか。

例えば、理由を説明しないまま、「子供は言われたとおりにしておけばいい」と言ってしまふ。「あの子はできているのに、なぜあなたはできないの」と出来具合を比べてしまふ。こうして、全員が同じことを、同じようにできることを求めてしまう感覚が、大人の心にあるかもしれません。教師、保護者、地域として関わる大人が意識を新たにすることが必要ありそうです。

「言われたとおりにできた」「正しい答えを出したら終わり」「テストが満点だったら勉強ができたことになる」といったことをめざしていた過去と比べ、明らかに変わっています。

今、学校では、「自分で課題を見つけ、それを解決する力」を育てるために、子供一人一人(個)に応じた最適な学びを、学校などで共に過ごす仲間と共に、協働して行うことが重要だと言われ、対応を変化させてきています。

例えば、「正しい答えは、どのように考えたから出せたか説明できるようになった(過程重視)」「自分で目標を決め、自分の立てた計画に沿って勉強を続けた結果、テストで満点が取れた(自己調整)」「自分の考えを友達に話したら、もっと良い方法が見つかった(相互作用)」と振り返ることができる。このような力を伸ばしていきたいと考えています。

「令和の日本型教育」の構築をめざして(答申) 文部科学省、個別最適な学びと協働的な学び(上智大 奈須正裕氏著書)を参照し作成した文です